

○公民館の課題について

- ・公民館の活動は現在でもしっかりやられていると思うが、集う場、気軽に人々が集う場としては機能しているか。用事がない人は来ていない。
- ・法律でもっぱら営利を目的としてはならないとなっているが、全面的にしていけないということだし、自販機もしくはカフェがあってもいいのではないか。
- ・学習拠点として期待している人口がどの程度いるか具体的な数字をある程度掴んでおく必要があるのでは。
- ・どれくらいのスパンで公民館活動を捉えていく必要があるか、対象となる人口構成、年齢階級がどれくらい変化していくかということと、どのようなことに興味をもっているか、例えば、学習拠点として学齢期の子供を対象にしているのか、それとも、それ以降の働いている人達を対象にしているのか区分けも考えていったほうが良いと思う。
- ・公民館の法律で決まっている業務は、公民館の事業、定期講座を開設することなどいくつかあるが、すべてできることはないだろう。すべて挙げてしまって現場に押し付けている印象。市として、どのようなサービス対象者があるのか、どのようなサービスを求めているのだろうか、公民館として提供可能なサービスはなんだろうかを私は知りたいと思っている。
- ・前回の会議で聞いたところ、公民館の設置ではなくて、サービスのことについて検討してほしいということなので、サービス対象、予算、人員、サービス内容で今提供できるサービスは何だろうか考えざるを得ないと思っている。全体像がよく判っていない。先ほどの民間委託になったら、利用しづらくなったのでは誰も使わなくなってしまうのでなかなか難しい。財政上の問題とどこで折り合いをどこで付けるか、踏み込めていけたらいいかなど。
- ・議論の視点として公民館だけの視点だけではなく、横の繋がりを大事にしていく機能もある。地域住民のためになっていければいいという視点はもつ必要がある。
- ・持続可能な公民館活動を考えるときに、市の財政の視点の一つに入れなければならない、理想論だけ言ってもなかなか回っていかないと感じる。
- ・公民館を利用している人の意見だけでなく、全く利用していない人たちの意見も取り上げる必要がある。3館だけでなく島田市全体の中で、どのような公民館の在り方がいいのか考えていく。
- ・公民館は、運営するのは人であり利用するのも人なので、どのような心の通

った運営だったらいいのか、どのように利用してほしいか議論しないと意味がない。

- ・ 公民館は、縦割りを超えて横の繋がりになって、ハブになっていくところが大事で、地域に開いていくときに公民館の活動のことだけみていくのではなく、どれだけ外の取組みとか活動とか拾うことで関わっていけるかがすごく大事だと思った。
- ・ 公民館だけを論じるのではなく各エリアの特色を探ったほうがいい。
- ・ 資料の「新時代の公民館をめぐるキーワード」の中で何か取り上げて考えることができたらいい。
- ・ 初倉、六合、金谷は公民館やコミュニティがあって、友人は非常に地域のことをよく知っている。一方、私は勤めていたこともあるが、地域ことは自分の周辺のことしか知らない。この違いは何だろうと考えると、昔からの土壌もあるかもしれないが、コミュニティとか公民館があるかどうかの違いかなと思っていて、市内のなかでも地域間格差は大きいなど。
- ・ 公民館や公会堂が大切だなど思うことは、そこを拠点とした人と人との繋がり、資料（「公民が集う公民館の再構築」の抜粋要約）にもある“PR力”、近くにいる人達との繋がりを築いていく場であり、空間であり、そのような役割を求められていくのではないか。
- ・ キーワードのなかで、社会的包摂、いろいろな方達を取りこんでいく機能が大切になると思っている。
- ・ 昨年の県の研修（防災が中心の講演）で、「何かあったら集まろうではだめですよ」と。日頃から関係づくりをして、それで防災の拠点機能が発揮されると。そういう意味においても、人をつなぐという拠点であるべきと思った。それには日頃から、講座やお祭り、文化祭などの形で世代を超えて、特に若い子供達が公民館の体験をすることが大切だと思う。それが現状ではできていないのか、3つの公民館に課題があるのかどうかを私は知りたい。
- ・ 施設を利用する意味で大きな課題がなくて、運営の方法を変えていけばその目的を達成するのであれば、そのところを明確にしていくべきだと思うし、3つの公民館で成功したことを公会堂、各地区に発信してほしい。
- ・ 利用していない人が公民館をどのような見方をしているか。更に、ある会合で初倉地区の私は初倉公民館を利用できるが、街なかの委員は、会場にお金を払って会合を開いていることもあるらしい。地域間格差を感じる。交流とか居場所、目的、講座があっていくのは立派だが、講座がなくても行ける場所はないのかな。
- ・ 公民館は、民間企業や個人の活動などにはできないように現在なっており、そ

のことも含めて、今後、検討していただきたい。

→「公民館では現在認められていない民間企業や個人の活動などの基準の見直しを図り、利用できるよう検討する。…」とある焼津市の公民館利用基準見直しの記事について

○他市町の成功事例について

- ・長野県飯田市、上田市をはじめとした成功事例を確認する。

○公民館をめぐる地域の状況について

- ・老人クラブの活動に参加しているのがいつも同じ顔触れである。
- ・今の若者は、我々とは全然違う性格を若い人達が持ち始めているとか、学習態度も違うし、社会に対する参加意識も違う。
- ・高齢者についても、行事に最近出て来ない理由を把握する必要がある。そのような人口が増えてくる状況もある。数年経つと人口がだんだん減ってくるから。
- ・地域に住んでいてサービスは受けるが自治会活動には参加したくない、今の若い人の典型である。お金がでないとやらない。
- ・居場所ということがあるが、通常、集まってわいわいがやがやすることらしい。ただ、私の町内では場所ではなくイベント提供型になってしまった。これをやるからここに集まろうということになってしまった。居場所というのは、空間と時間を提供してあげればよいと思うがなかなか難しい。公民館が突破口になるのかな。12,890人を対象とする公民館が一つあるのはいいが、少ないか、どれだけ空間と時間を提供できるか。
- ・切実に思っているのは、高齢者も小さい子ども、“移動”することに問題が多いのではないか。
- ・全国的にも課題となっていることだが、コミュニティ機能、自治的機能は低下しており、それを補完しているのが公民館ではないか。
- ・市の街なかに公民館がなぜないのか。それを補完しているのは公会堂。自治会で所有し、そこに事務を置いて公民館の役割をしているところがある。
- ・初倉、六合、金谷だけあるというところも問題なのかもしれない。北部地区も欲しいだろう。グローバルな視点で考えていくことがこの会議の役割なのかもしれないと感じた。
- ・公会堂の役割は大きいと思う。公会堂で講座が提供されていることについても実態として調べておく必要があるのではないか。地域医療を支援する会も公会堂で年10回ほど講演会を開催している。いろいろな学習活動もあるこ

とも考察の一つとして入れておいたほうが良いと思う。

- ・ 3世代、4世代が一つの家族であった昔と違って、単世帯の若い夫婦だけの住み方が多くなっているなかで、地域の人達との関係づくりをしていくのはとても大切なことだと思う。
- ・ 市内には、多くの良い、集いの施設、場があるが、そこをどのように人を集めていくか、これからの話し合いの一つの視点になるのではないか。

○公民館のコミュニティセンター化について

- ・ コミュニティセンターになると教育委員会から市長部局に移管している例がある。それにより弊害があるという論文もあった。
- ・ コミュニティセンターにするメリットもあるが、コミュニティセンターが良いと言われていたときと、世の中の状況が変わってきている。
- ・ 社会的弱者も含めて支え合うという「社会的包摂」という話があるが、利用料が上がったら社会的弱者も支えていく考えは難しくなるのではないか。
- ・ 市がしっかり管理する（直営の）公民館であったほうが、SDGsなどいろいろなことができていくのではないかと思う。
- ・ 公民館では地域の子供達や高齢者も取りこみ、夏祭りをはじめ、混ざり合った形でいろいろなことに取り組んでいる。先へ派生させて違うことへという流れを作るときも公民館であってもできるのではないか。
- ・ コミュニティセンターでできることもあるが、営利目的も解釈が変わってきていることを考えると、公民館が上げた利益を地域に還元する形であれば営利目的でも問題にはならないのではないかと思う。
- ・ 「社教情報No.85」では島根県の例も紹介されている。コミセンと公民館、コミセンは自主運営が主体で運営能力がある地域住民がいれば伸びると、人任せではだめだと。島根県で成功している事例は併設型だと、教育委員会も首長部局もかんでいる、自主的とはいいいながらトリガー、引き金が必要ではないかと思う。

○今後のスケジュールについて

- ・ 答申の作り方として、これからどのような話し合いをして、どのように視察に
いって、どんな作業で答申を作っていくのか、委員の皆さんと共有できれば。